



『医療資源を最大限に活用するための地域連携』

昭和大学藤が丘病院 皮膚科 教授 末木博彦

『医療安全の基本～信頼のコミュニケーション～』

昭和大学藤が丘病院 医療安全管理室 師長 柴田雅子

『藤が丘イベント 鉄道災害訓練に参加しました！』

昭和大学藤が丘病院 救急医学科 講師 佐々木 純

『病院からのお知らせ』

『TOP I C』

巻頭言

『医療資源を最大限に活用するための地域連携』



皮膚科 教授 末木博彦

日頃より病診連携、病病連携など地域連携へのご理解、ご協力を賜っていることに外来運営委員会の委員長といたしまして深く御礼申し上げます。

来年度は医療費のプラス改訂がなされるとはいえ、昨今の経済状況と高齢化社会の進行を目の当たりにしますと医療費、医療資源を無駄なく最大限に活用することは緊急の課題です。昭和大学藤が丘病院は急性期病院としての機能を最大限に発揮することが求められています。すなわち急性期で高度な医療、入院治療を必要とする患者さんを速やかに受け入れる体制を整える必要があります。このためには病状が安定した患者さん、慢性期で定期的な投薬は必要でありながら、専門的検査や治療を必要としない患者さんを地域の診療所の先生にご紹介し(これを私どもは「逆紹介」と呼んでいます)、地域の先生方からは急性期の患者さんを当院にご紹介いただくという双方向の連携推進が重要です。平成21年度に地域の先生方から当院にご紹介いただいた患者さんの数は1日平均44.3人、当院から逆紹介した患者さんの数は1日平均24.3人でした。これにはご紹介いただいた患者さんを紹介元にお戻した数は含まれません。今後これらの数をさらに増やし連携を強化してまいりたいと考えます。逆紹介をスムーズに行うため、昨年、青葉区医師会を通じて疾患別に逆紹介を受け入れていただける診療所の先生方を募り、「昭和大学藤が丘病院連携医」として70の医療機関を登録させていただきました。現時点では内科領域に限定しておりますが、今後他科にも拡大していく予定です。

永年の医師-患者関係から患者さんにとって主治医は1人であり、紹介や逆紹介はいまだ習慣として十分根付いておらず、抵抗感もあるようです。今後は1人の患者さんに2人主治医制、すなわち身近にいて定期的に管理する主治医と、急に症状が悪化した時、合併症が生じた時に特殊な検査や治療をする病院の主治医を持ち、その時の状況、目的によって診療所と病院を上手に使い分けていただく必要性を患者さんにも分かりやすく伝えていきたいと考えます。さらなるご協力をお願い申し上げます。次第です。

医療安全の基本 ～信頼のコミュニケーション～



医療安全管理室
師長 柴田 雅子

医療者は、事故を起こすために診療を行う人はいません。しかし医療過誤の有無にかかわらず結果として有害事象(事故)が起こってしまう事があります。その一つが合併症です。合併症を理解し、受け入れられる場合とそうでない場合とあります。その鍵が「信頼のコミュニケーション」です。コミュニケーションを単に情報の受け渡しと考え、それを正確に行えばよいという考えではありません。コミュニケーションはそれ以上のものつまりお互いの応答(キャッチボール)を前提として情報を共有するための「関係づくり」です。この関係づくりは、信頼によって成り立ち、信頼を醸成するものだと思います。長谷川敏彦(日本医科大学医療管理学教室教授)氏は、信頼の3ステップ「ホップ、ステップ、ジャンプ」は言わば土台にある最初の医療者と患者の「信頼関係の構築」次いで、「信頼の確保と継続」さらに不信が生じた場合の「信頼回復」という3つのブロック作り、信頼の家の建設が想定できると言っています。医療安全や患者・職員満足はその上で構築されるものだと思います。そのためには、患者さんをチームの一員として、共通の目標を持ち患者さんにも積極的にチームに参加してもらおう事がコミュニケーションの第1歩であるのではないかと考えます。

藤が丘病院イベント 鉄道災害合同訓練に参加しました！

平成22年2月26日(金)車輛工場にて鉄道災害対応合同訓練に、藤が丘病院から医師2名・看護師1名が参加しました。今回の訓練は、救助隊、救急隊、藤が丘病院との合同で行い、実際に車両を切断・破壊し、列車に挟まれた負傷者を救助するという実際の災害に生かされる訓練となりました。

藤が丘病院では、横浜救急医療チーム:YMATの隊員として横浜市に登録しています。YMATとは横浜市内で発生した、がけ崩れなどの自然災害、列車脱線事故、高速道路交通事故などにおいて複数の重傷者や多数の負傷者が発生し、又は発生が予想される場合、災害現場に迅速に出動し、救命のための的確な医療活動を展開する医療チームを指しています。福知山線脱線事故などの災害に対する目的でYMATは設置され活動していますが、幸いなことに横浜市内では大規模な列車災害はありません。今回は、鉄道事故がおきたときの連携、安全対策など実際の車両を使用し訓練を行い実物での車両内への進入、ガラスの破片の中での患者の応急処置を体験することができ、今後の活動に貴重な経験をすることができました。

(救急医学科 講師 佐々木 純)



車両を切断した中での救護活動の光景



車両の間に挟まれた人の救護活動の光景

病院からのお知らせ

□患者さま送迎バスの廃止について

患者さま送迎バスをご利用の方へ。

現在、患者さま送迎バスを運行しておりますが、平成22年3月31日(水)をもって廃止させて頂くこととなりました。

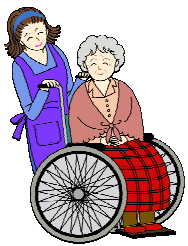
なお、職員専用バスとしては、今後も運行していきます。ご理解とご協力をお願い致します。

□検査説明コーナー移転について

平成22年2月15日(月)より検査説明コーナーが2階から1階へ移転致しました。検査説明を受けられる患者さまは、1階患者情報サービスセンターまでお立ち寄りください。



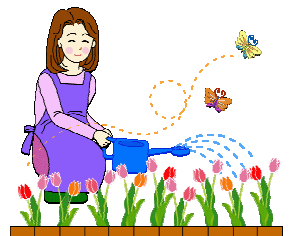
□院内ボランティア活動について



平成22年2月9日(火)よりリハビリテーション病院でもボランティア活動を開始致しました。藤が丘病院でのボランティア活動はご存知の方も多いかもかもしれませんが、リハビリテーション病院での活動も随時開始しています。今後は、藤が丘病院と連携し、活動の幅を広げていきたいと思っております。そこで、藤が丘病院・リハビリテーション病院にて一緒にボランティア活動を行って頂ける方を募集しております。活動内容は外来患者補助活動、小児病棟での患児援助、病棟での図書貸し出し活動、ガーデニング活動等となっております。

18歳以上の方で長期間活動して頂ける方を募集しております。お問合せお待ちしております。

【問合せ先】昭和大学藤が丘病院 管理課 045-971-1151(代表)



□拾得物に関するお問合せについて

病院内でのお忘れ物等に関するお問合せについて。

御来院された際のお忘れ物・落し物に関するお問合せ先に関しては、下記まで御連絡ください。

拾得物の保管期間は、3ヶ月の保管となっております。

【問合せ先】藤が丘病院内での忘れ物 昭和大学藤が丘病院 045-971-1151(代表)
リハビリテーション病院内での忘れ物 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 045-974-2221(代表)

□コミュニケーション・マナー研修



コミュニケーション・マナー研修の様子

平成22年2月22日(月)JALアカデミーによる
教職員対象のコミュニケーション・マナー研修が開催されました。
接遇に関することや豊かな表情づくりの実践を踏まえて学ぶことができました。

□昭和大学フォトコンテスト



昭和大学創立 80 周年を記念して、第1回昭和大学フォトコンテストが開催されました。
応募は、教職員・学生から160 作品の応募があり、審査委員によって各賞が選考されました。
当院には、1 月 22 日～28 日まで展示されました。

□放射線部より

病院長が、自らの手で病院周辺のゴミ拾いをされているところに遭遇した。事務長は、院内にゴミが落ちているときは、自ら拾うことにしているのだと聞いた。このことは、放射線部内で紹介され、私たちにもできることはあるのではと考えた。放射線部では、朝の挨拶で、職員間で「おはようございます」と元気に挨拶をしようと数年前から取り組んだところ、副院長に「放射線部の廊下を朝通ると実に気持ちが良い」と褒めていただき、私たちは子供のように喜んだ。組織のトップの方々が自ら行動し、また、取り組みを評価することは、きっと何かを変えるのだらうと思う。そして、突如として放射線部壁塗り隊が結成され、斑な壁が、真っ白になった。この綺麗に塗られた真っ白な壁を見ると、実に誇らしく、何だか力が湧いてくる。

(放射線部 技師長 加藤京一)

